

## 小学校英語授業での教師の問いかけ

### — Yes/No 疑問文の有効な活用 —

#### *How to Ask Pupils Questions in Elementary School English Classes*

#### *— For an Effective Use of Yes/No Questions —*

早川 知江 HAYAKAWA Chie

(教育学部)

### 0. はじめに

本稿は、小学校英語教育で効果的に絵本を読み聞かせる技術を小学校教師を目指す大学生に教える研究の一環である。2019年度から実施されている、小学校教員養成課程外国語コア・カリキュラムには、「外国語の指導法」と「外国語に関する専門的事項」が示されている。「外国語の指導法」では、身につけるべき指導技術として「児童の英語での発話を引き出し、児童とのやり取りを進めることができる」力が求められており、「外国語に関する専門的事項」では、「児童文学（絵本、子ども向けの歌や詩等）」について知ることが、教師の「英語に関する背景的な知識」として求められている（文部科学省 2019）。

つまり、小学校外国語授業での絵本読み聞かせ時にも、教師が児童にうまく問いかけ等を行い、児童の英語による発話を引き出すことが理想である。しかしそうした理想の実現を困難にする、教師・児童双方が抱える課題がある。教師の抱える課題とは、読み聞かせ活動自体に慣れておらず、絵本文をそのまま朗読する以外に何をどう問いかけていいかわからない場合が多いという現状である。児童の抱える課題は、教師の問いかける英語が必ずしも理解できず、黙り込んでしまう場合があることである。

両者の課題を解決し、教室に絵本を介した英語のやり取りを生み出すため、小学校教師の絵本読み聞かせ技術の向上を目指した研究を続けてきた。その一連の研究を踏まえ、本稿では、児童に理解しやすく、やり取りを引き出す問いかけ方の一つである「Wh 疑問文を Yes/No 疑問文に置き換える」という技法に特化し、その実効性を検証する。具体的には、どのような問いかけであっても Yes/No 疑問文に置き換えることが可能なか確認し、Yes/No 疑問文にできない場合の教師の工夫も考察する。

どのような発話でも児童に理解しやすく言い換えられる技術は、英語を学び始めたばかりの児童を指導する教師には必須の技術である。この研究は最終的には、小学校教員養成課程科目「外国語の指導法（本学における「外国語科指導法）」で用いる、英語絵本読み聞かせ訓練用の教材作成に繋がる。

## 1. 先行研究と問題の所在

小学校教員養成課程での英語絵本の扱い・読み聞かせ技術については、これまで継続的に研究を進めてきたため、本節ではまずそれらの概要を振り返りつつ、本稿の課題を明らかにする。

早川 (2021) は、教員養成課程に在籍する学生を対象に、①英語絵本文の発音練習、②英語絵本読み聞かせの模範動画の視聴、③読み聞かせに使用しうる既存の教室英語表現集の導入と発音練習の3つの訓練を行い、それぞれの訓練後の英語絵本読み聞かせを比較分析した。その結果、次の3点を明らかにした。

1. 英語本文の読解と発音練習を行えば、本文をある程度正確に朗読できるようになる。しかし、参加学生は読み聞かせ中に「何を問いかけたらよいか」「どのように問いかけたらよいか」が分からず、単に本文の朗読のみ行う傾向がある。
2. 模範読み聞かせ動画を視聴すると、学生の読み聞かせは大きく向上し、本文以外のコメントや問いかけを多く取り入れるようになる。ただしその発話はほぼ日本語のみである。
3. 既存の教室英語表現集を学習することで、英語による発話が増える。ただし日本語に対し英語の使用頻度は低く、必要とする発話カテゴリーの英語表現が咄嗟に思いつかない、または児童の返答に対応するための表現が思いつかないなど、課題は残る。

この結果から、英語絵本読み聞かせ技術に関し、研究課題は以下の2つに大きく分かれる。

### 【課題①】 問いかけの「中身」に関する課題

絵本を読み聞かせながら、教師は児童に「何を」問いかけたらいいのか。絵本の絵やストーリーから児童の返答を引き出すような問いを思いつくための方策が必要

### 【課題②】 問いかけの「しかた」に関する課題

絵本を読み聞かせながら、教師は児童に「どう」問いかけたらいいのか。児童が教師の発話する英語が理解できないとき、児童の理解とやり取りにつなげられるような、言い換えの技法が必要

このうち課題①に関しては、早川 (2023a) で扱った。この研究は、機能言語学の一派である Systemic Functional Linguistic (以下 SFL) の理論枠組みに基づき、SFL の枠組みから見た3つの意味 (Ideational、Interpersonal、Textual) 全ての観点から、絵本の絵や文には「パターン」が見つかることが多いことを指摘した。その上で、教師は読み聞かせの際に、その「パターンの先」を児童に予想させる問いを発することで、「次はどんな

るんだろう」という児童の期待を活用した効果的な問いかけができることを提案した。

また課題②に関しては、早川（2023b；2026刊行予定）で扱った。一般に用いられている小学校教室英語集の表現であっても、小学校教師を目指す学生が正確に使いこなせない、あるいは意味を理解できない場合がある。早川（2023b）は、この問題を解決するため、教室英語集の表現をより平易な表現に言い換える技法を検討した。この言い換えのために、CDS（Child-Directed Speech；大人や年長者が子どもに語りかける話し方）の理論を応用し、英語表現を児童の側から見て理解しやすく、応答しやすく変えていく方策を示した。具体的には、以下の【子どもへの効果的な問い直し方仮説】を立て、言い方①から④に進むにつれ、同じ問いかけがより平易に、児童に理解しやすくなり、その結果、児童とのやりとりが促進されると提案した。

#### 【子どもへの効果的な問い直し方仮説】

- ①同じ内容を、ゆっくりと繰り返して問いかける
- ②同じ内容を、短く単純な文で問いかける
- ③同じ内容を、ジェスチャーや挿絵を利用した視覚的補助を交えて問いかける
- ④同じ内容を、子どもが答えやすい問いに置き換えて問いかける（例：Wh 疑問文を Yes/No 疑問文に）

この①～④の手法は、あくまで CDS 理論から導いた仮説である。そこで早川（2026刊行予定）は、小学校現場でそれらの技法がどの程度有効かを確認するため、愛知県 K 市の公立小学校 5 年生児童を対象に、実証調査を行った。具体的には、調査対象児童へ絵本を読み聞かせながら英語によりさまざまな問いかけを行いつつ、①～④の手法を用いて問い直してみることで、以下の 2 点を確認した。

- 結果 1. これらの問い直し手法は実際に児童の理解を促進するのに（その結果、やりとりを引き出すのに）有効である
- 結果 2. これらの手法の中でも、同じ発話をゆっくり繰り返す手法（①）はやや他より有効性が低く、②、③、④の技法には、有効性に大きな差はない

すなわち、教師が児童に英語で問いかけるさい、①～④の手法を適切に取り入れることで、児童の理解を促進して発話を引き出せることが示された。また最初は少人数しか正答できない問いも、①～④の問い直し方を重ねることで、最終的には平均 84.9% の児童が正答できたことから、教師が発話法を工夫することで、英語を学び始めたばかりの小学校授業でも、英語だけで児童とのやり取りを進めることができる可能性が示された。

しかし、これらの手法の効果が確認されたとして、その成果を小学校教員養成課程の授

業に応用しようと考えたとき、最大の課題は、「小学校教師を目指す学生たちが、そうした言い換え表現を思いつくか。また、どのような問いも、②～④の手法で言い換えることができるのか」ということである。特に、④の Wh 疑問文を Yes/No 疑問文に置き換える手法は、用いる文法が全く変わるため、教師がとっさに表現を思いつくことは難しいと考えられる。そこで本稿は、これまでの研究から生じたこの新たな課題に対し、学生や小学校教師を対象とした教室英語表現集の中から仮に1冊を選定し、そこに載っている Wh 疑問文を実際に Yes/No 疑問文に置き換えてみることで、「どのような問いかけも Yes/No 疑問文にできるのか」「その際のコツは何か」「Yes/No 疑問文にできない問いかけとはどのようなものか」「Yes/No 疑問文にできない場合の対処法」を順に考えていく。それにより、絵本読み聞かせ技術の向上に対する【課題②】問いかけの「しかた」に関する課題に対応するための方策をさらに充実させることが狙いである。

## 2. 検証

### 2.1 分析対象

小学校教員養成課程に属する学生や小学校教師が利用できる教室英語表現集には、主に3つのタイプがある。「大学の小学校教員養成課程科目での使用を想定した教科書やその付録」「県教育委員会や教育センターが提供するウェブサイト」そして「市販の小学校教室英語表現集」である。本稿はこのうち、以下の「大学の小学校教員養成課程科目での使用を想定した教科書」に載っている問いかけの英語表現のうち、Wh 疑問文を抽出し、児童に分かりやすい Yes/No 疑問文に置き換えられるか検証する。

カレイラ松崎順子著『Bright and Early—Classroom English for Teachers for Children—子どもに英語を教えるための教室英語』南雲堂 2009年（以下；*Bright and Early*）

### 2.2 Yes/No 疑問文に置き換えるとは

分析の前に、「子どもへの効果的な問い直し方仮説」について、本節の議論に関係する②と④の概要を紹介する。

②の「同じ内容を、短く単純な文で問いかける」手法は、「1文1文が短く、構造が単純」というCDSの特徴からきているが、どの程度「短く」「単純」かに関しては、本稿では1文の長さを5～6単語程度とし、小学校で扱う第1～3文型のみを用いることを目安とする。この根拠として、現行の小学校学習指導要領（2内容〔第5学年及び第6学年〕エ文及び文構造）によれば、小学校のうちに学ぶべき文構造は以下の3通りとされているためである（文部科学省 2017）。

a [主語+動詞]

- b [主語+動詞+補語]のうち、主語+be動詞+名詞/代名詞/形容詞
- c [主語+動詞+目的語]のうち、主語+動詞+名詞/代名詞

これらの文型のみを用いることを基準として、本稿における「単純」な文とした。短く単純な文に言い換えるとは、例えば、Who's the person next to Jessica? (ジェシカの隣にいる人は誰かな?) と尋ねても子どもが答えられない場合、person を next to Jessica が修飾する形を避けて短い2文に分け、[挿絵中の Jessica を指し] This is Jessica. (これがジェシカね) [次に隣の人物を指し] Who is this? (これは誰かな?) と問いかけた方が、児童に理解しやすいということである。

④の「同じ内容を、子どもが答えやすい問いに置き換えて問いかける」手法は、本稿の中心テーマである。これは「子どもが答えやすい簡単な文で問う」というCDSの特徴からきているが、この場合の「簡単」とは、教師の発話そのものを短く単純にする②の手法とは異なる。この「簡単」は、教師ではなく、問いかけに答える子どもの側の発話が簡単になるということである。例えば教師が、What's the weather today? (今日はどんな天気かな?) と Wh 疑問文で問いかけた場合、子どもは問いかけ自体は理解できても、答え方が分からず返答できない場合もある。なぜなら、この問いかけに答えるには、(It's) Sunny / Rainy / Cloudy / Windy. などの表現を知っていて、かつ状況に合わせて適切に使いこなせなければならないからである。あるいは、知識はあっても、教室の中で英語表現を口にする自信がない場合もあるだろう。それに比べ、教師が Is it sunny? Rainy? Cloudy? と、ありうる天候を順に Yes/No 疑問文で並べていけば、子どもは Yes. か No. を発するのみ、あるいはいっそ、当てはまる天候が発話されたときに頷くジェスチャーをするだけで応答できる。このように、子どもが用いる発話が簡単になる、あるいは子どもが英語を発話しなくても答えられるという点で、④も、子どもとのやりとりを促進するのに非常に有効な手法といえる。

次節では、Wh 疑問文が児童に通じないとき、教師は常に Yes/No 疑問文に言い換えることが可能なのかを検証する。

### 2.3 検証

先述の小学校教室英語表現集 *Bright and Early* で用いられている Wh 疑問文は、以下の69文である(日本語訳も *Bright and Early* に準じたが、一部日本語訳がついていないものは早川の和訳を用いた。また、文脈の補足は [ ] 内に記した)。ただし、上記書籍中の Lesson 4 Interaction with ALT の章は、教師が話しかける対象として、小学生児童ではなく Assistant Language Teacher (ALT) を想定しており、児童に分かりやすく問いかける技法を考える本稿の趣旨に合わないため、分析対象から外した。

- 1: How are you today? (元気ですか? [原文は「調子はどうですか?」という Wh 疑問文])
- 2: Who is absent today? (今日は誰がお休み?)
- 3: What's the date today? (今日は何月何日?)
- 4: What day is it today? (今日は何曜日?)
- 5: How is the weather today? (今日の天気はどうですか?)
- 6: What did you enjoy the most? (何が一番楽しかった?)
- 7: Which day is after Tuesday? (火曜の後は何曜日?)
- 8: Whose turn is it? (誰の番?)
- 9: Which song do you want to sing? (なんの歌を歌いたい?)
- 10: How do you spell "apple"? («アップル»はどのようにつづるの?)
- 11: Who got more than eight points? (8点以上の人?)
- 12: What do you think happens next? (次に何が起こるかな?)
- 13: What do you see in this picture? (この絵の中に何が見える?)
- 14: Who were the people in the show? (番組に誰と誰が出ていた?)
- 15: What did Ron say? (ロンは何って言った?)
- 16: What does "How do you do?" mean? («How do you do?»はどういう意味ですか?)
- 17: Who goes first? ([ゲームなどの順序で] 誰が最初?)
- 18: What number did you get? ([サイコロなどの表示が] いくつだった?)
- 19: How many points did you get? (何点取った?)
- 20: Which team has the most points? (一番点数が多いチームはどこ?)
- 21: Who is the winner? (誰が勝った?)
- 22: Which team is the winner? (どのチームが勝ったの?)
- 23: Where did we place? (私たちの順位は?)
- 24: Which country does this flag belong to? (この旗はどここの国の旗?)
- 25: How many pairs do you have? ([カードゲームで] いくつのペアを持っていますか?)
- 26: What is it? ([動物の絵のついたカードを引かせて] 何のカード?)
- 27: What color do you want for the roof of this house? ([塗り絵で] この家の屋根は何色にしたい?)
- 28: How much New Year's money did you get? (お年玉いくもらった?)
- 29: What did you do on New Year's Eve? (大晦日に何をした?)
- 30: How many New Year's cards did you receive? (何枚年賀状をもらった?)
- 31: Which shrine did you visit during the New Year's holidays? (お正月はどここの神社を訪ねたの?)

- 32: Which class do you like best? (どの授業が一番好き?)
- 33: What's your favorite subject? (好きな教科は何?)
- 34: What kind of snacks will you take? ([遠足に] どんなお菓子を持っていくの?)
- 35: How was your school trip? (修学旅行どうだった?)
- 36: What was the most interesting thing? (何が一番楽しかった?)
- 37: What souvenirs did you buy? (お土産に何を買ったの?)
- 38: What did you do on the train? (電車では何をしたの?)
- 39: What are you doing this summer? (今年の夏は何をするの?)
- 40: What events are you going to take part in? ([運動会で] どの競技に出るの?)
- 41: Which event excited you the most? ([運動会で] どの競技が一番面白かった?)
- 42: What was your time in the 50-meter dash? (50m 走のタイムはいくつ?)
- 43: What is the score? ([スポーツの試合で] スコアは?)
- 44: Which position do you play? ([スポーツの試合で] あなたのポジションは?)
- 45: How did yesterday's soccer game go? (昨日のサッカーの試合どうだった?)
- 46: How many push-ups can you do? (何回腕立て伏せできる?)
- 47: How far can you swim the backstroke? (どれくらい背泳ぎで泳げるの?)
- 48: How was the bun-snatching race? (パン食い競争どうだった?)
- 49: How many legs does a spider have? (クモの脚は何本?)
- 50: What goes baa? (メーと鳴くの [動物] は何?)
- 51: What has lots of sharp spines all over its back? (背中じゅうに尖ったトゲがあるの [動物] は何?)
- 52: What is the largest animal on land? (陸上で最も大きい動物は?)
- 53: What is the tallest animal on land? (陸上で最も背の高い動物は?)
- 54: What's a young sheep called? (子どものヒツジは何と呼ばれる?)
- 55: What bird has lots of long, different colored tail feathers? (長くてカラフルな尾羽をたくさん持っている鳥は何?)
- 56: What do fish use to breathe? (魚は呼吸するために何を使う?)
- 57: What grade are you in? (何年生?)
- 58: What do you want to do in the future? (将来何になりたい?)
- 59: How long do you watch TV every evening? (毎晩テレビをどれくらい見るの?)
- 60: What kind of TV program do you like? (どんなテレビ番組が好き?)
- 61: How many brothers and sisters do you have? (きょうだいは何人?)
- 62: Where did you go on your last family trip? (この前家族旅行でどこに行った?)
- 63: When is your birthday? (誕生日はいつ?)
- 64: What did you get for your birthday? (誕生日に何をもらった?)

- 65: What sport do you like to play? (何のスポーツをするのが好き?)
- 66: What do your friends call you? (友達はあるあなたのこと何て呼ぶの?)
- 67: What did you have for breakfast? (朝食に何食べた?)
- 68: What time do you usually go to bed? (いつも何時に寝るの?)
- 69: What instrument can you play? (どんな楽器がひけるの?)

これらの Wh 疑問文を用いて児童に問いかけ、すぐに児童が返答できればもちろん問題は無い。本稿の趣旨は、教師の発した英語が難しすぎて児童に理解できない場合、教師はどう問い直すことで児童の理解を促し、やり取りを促進するかという方策を明らかにすることである。そのため、上記69文の Wh 疑問文に児童が答えられなかった場合に、Yes/No 疑問文に言い換える方法を考えていく。

基本的に、Wh 疑問文を Yes/No 疑問文で言い換える最大のポイントは、Wh 疑問文で想定される返答を選択肢とし、それらを順に Yes/No 疑問文で聞いていくことである。具体例を挙げる。先ほどの69文のうち、最初の1: How are you today? (原文は「調子はどうですか?」という Wh 疑問文) でいうと、「想定される返答」は、I'm good. (元気です) / I'm tired. (疲れています) / I'm sleepy. (眠いです) などである。Yes/No 疑問文で言い換えるとは、それらを順に、Are you good? (元気ですか?) / Are you tired? (疲れていますか?) / Are you sleepy? (眠いですか?) と尋ねる形にしていくということである。あるいは、最初の Are you good? のみセンテンスで聞き、あとは Tired? Sleepy? と、単語だけを上げ調子で並べていくことも可能である。この方が、単語数の少ない簡潔な形になり、児童にはより理解しやすい。このとき、一つ一つの質問をはっきりと上げ調子のイントネーションにし、次の質問の前に間を取り、児童が Yes. や No. や、頷きなどのジェスチャーで応答できる余地をもたせることが重要である。

このやり方で、69文のうち下記の45文が Yes/No 疑問文に言い換えられた(矢印右側に言い換えの Yes/No 疑問文例を記した。2文目以降を単語のみにする形式を採用し、日本語訳は省略)。ここに含まれない24文については、「3. 考察」で扱う。

- 1: How are you today? → Are you good? Tired? Sleepy?
- 2: Who is absent today? → [空いている席の児童名を確認してから] Is Takumi absent?
- 4: What day is it today? → Is it Monday? Tuesday? Wednesday? ...
- 5: How is the weather today? → Is it sunny? Rainy? Cloudy? ...
- 6: What did you enjoy the most? → [実際に行ったアクティビティによって] Did you enjoy the spy game? Song? Pair work?
- 7: Which day is after Tuesday? → Is Monday after Tuesday? Is Wednesday after

- Tuesday? ...
- 8: Whose turn is it? → Is it Akari's turn? Satoshi's turn? ...
- 9: Which song do you want to sing? → [授業で用いたことのある歌を挙げ] Do you want to sing "ABC song"? "Hello Song"? ...
- 12: What do you think happens next? → [物語の展開によって] Does he go home? Look for the cat?
- 13: What do you see in this picture? → Do you see a dog? A cat? A horse?
- 15: What did Ron say? → Did he say "hello"? "Thank you"?
- 18: What number did you get? → Is it one? Two? Three? ...
- 23: Where did we place? → Are we the first place? Second place? ...
- 24: Which country does this flag belong to? → Is it Japan? China? India? ...
- 25: How many pairs do you have? → Do you have one pair? Two pairs? Three pairs?
- 26: What is it? → Is it a dog? A cat? A mouse?
- 27: What color do you want for the roof of this house? → Do you want red? Blue? Yellow?
- 28: How much New Year's money did you get? → Did you get one thousand? Five thousands? More?
- 29: What did you do on New Year's Eve? → Did you eat soba? Listened to the bell? Watched the Kohaku music show?
- 30: How many New Year's cards did you receive? → Did you receive one? Two? More?
- 31: Which shrine did you visit during the New Year's holidays? → Did you visit [小学校近くの神社] ?
- 32: Which class do you like best? → Do you like English? Japanese? Math?
- 33: What's your favorite subject? → Is it English? Japanese? Math?
- 34: What kind of snacks will you take? → Will you take chocolate? Cookies? Potato chips?
- 35: How was your school trip? → Was it good? Great? Exciting?
- 37: What souvenirs did you buy? → [修学旅行の行き先により] Did you buy Yatsunashi? Maccha?
- 38: What did you do on the train? → Did you play cards? Have chat?
- 39: What are you doing this summer? → Are you going to swim? Go camping? Go to a travel?
- 40: What events are you going to take part in? → Are you in a relay? Tag of war?

Beanbag toss?

43: What is the score? → Is it five to one? five to two? ...

44: Which position do you play? → Are you the goal keeper? Forward? Defender?

48: How was the bun-snatching race? → Did you eat the bun? Was it good?

49: How many legs does a spider have? → Does it have six legs? Eight? Ten?

50: What goes baa? → Is it a cat? A dog? A sheep?

51: What has lots of sharp spines all over its back? → Is it a frog?

52: What is the largest animal on land? → Is it a lion? A horse? A giraffe?

53: What is the tallest animal on land? → Is it a horse? A giraffe?

57: What grade are you in? → Are you a fifth grader? A sixth grader?

58: What do you want to do in the future? → Do you want to be a police officer? A teacher? A baseball player?

59: How long do you watch TV every evening? → Do you watch it for one hour? Two hours? Three hours?

60: What kind of TV program do you like? → Do you like cartoons? Dramas? News?

61: How many brothers and sisters do you have? → Do you have one brother? One sister?

67: What did you have for breakfast? → Did you have rice? Bread? Cereals?

68: What time do you usually go to bed? → Do you go to bed at nine? Ten? Eleven?

69: What instrument can you play? → Can you play the piano? The recorder? The guitar?

### 3. 考察

#### 3.1 Yes/No 疑問文にする際のコツ

前節で、大部分の Wh 疑問文が Yes/No 疑問文で言い換えられることを見たが、重要なのは、小学校教師を目指す学生にその「言い換え方」を明確に教えることである。Yes/No 疑問文を作るには、第2.3節で見たように、まず Wh 疑問文の「回答例」を考え、次に、それらの「回答例」を Yes/No 疑問文にしていく（文1. の例で言うと、Are you good? / Are you tired? / Are you sleepy? と順に尋ねていく）。こうした練習を、具体的な文を材料に、「外国語科指導法」の授業に取り入れることが重要である。

これらの Yes/No 疑問文が、児童にとって Wh 疑問文よりも返答が容易だということは、既に第2.2節で述べた。しかしそれ以外にも、Yes/No 疑問文には、児童のやり取りを引き出す重要な性質がある。それは、Yes/No 疑問文自体が児童にとって返答のヒントとして機能するということである。例えば、How are you today? と聞かれても、そもそも何を聞かれたのか分からない場合、Are you good? Tired? Sleepy? と教師が問い直すこ

とで、逆に児童は、「Good とか tired とか sleepy とか、そういう気分を聞いていたのか」と、遡って Wh 疑問文の趣旨が分かる。同時に、返答に使える表現をその場で学ぶことができる。

ときには、Yes/No 疑問文に対しても児童が答えない、あるいは「例」として教師があげた Yes/No 疑問文中に、児童に当てはまるものがない場合もあるだろう（例えば、児童が good でも tired でも sleepy でもなく、sad な場合）。しかしその場合も教師は、「例・ヒント」としての Yes/No 疑問文の性質を利用し、Yes/No 疑問文をいくつか発した後に、改めて Wh 疑問文で聞き直すことで、やり取りを促すことができるだろう。例えば以下のような聞き方である（Tが教師、Sが児童）：

T: How are you today? (気分はどう?)  
 S: [反応がない]  
 T: Are you good? Tired? Sleepy? (元気かな? 疲れているかな? 眠いかな?)  
 S: [どれにも反応しない]  
 T: No? Then ... how are you? (違うの? じゃあ、どんな気分?)  
 S: Sad. (悲しい気分)

つまり、教師が与えた good / tired / sleepy などの「気持ちを表す単語」が、児童が自分で sad という単語を思いつくヒントとして機能するということである。本稿ではそもそも、Wh 疑問文で尋ねても児童が答えられない場合の言い直し方として Yes/No 疑問文の利用を提案したが、この Yes/No 疑問文を経てから再び Wh 疑問文を用いることも、児童の英語理解を促進する方法としては大いに有効といえる。

こうした Wh 疑問文でのさらなる問い直しは、以下のように、教師が挙げる Yes/No 疑問文の「例」以外にも児童に回答がありそうな場合に特に有効である：

19: How many points did you get? (何点取った?)  
 → Did you get two points? Three points? (2点かな? 3点かな? [それ以外の点数もありうる])  
 → No? Then, how many points did you get? (違う? じゃあ何点取ったのかな?)

19のように数値を問う問いかけでは、Yes/No 疑問文を経てもう一度 Wh 疑問文を用いる技法以外に、なるべく少ない数を挙げたのちに、More? (もっと多い?) と付け加えて、児童に自分で適切な数字を答えさせる技法も有効だろう。以下の3文が類似例として挙げられ、この場合、最後の More? が、選択肢以外の答えも自由に答えられる Wh 疑問文と実質的に同様のはたらきをする。

28: How much New Year's money did you get? (お年玉いくらもらった?)

→ Did you get one thousand? Five thousands? More? (千円かな? 五千円かな? もっとかな?)

46: How many push-ups can you do? (何回腕立て伏せできる?)

→ Can you push-up twice? Three times? More? (2回かな? 3回かな? もっとかな?)

47: How far can you swim the backstroke? (どれくらい背泳ぎで泳げるの?)

→ Can you swim 25 meters? 50 meters? More? (25メートルかな? 50メートルかな? もっとかな?)

### 3.2 Yes/No 疑問文にならない問いかけと対応

ここまで見てきたように、Wh 疑問文を Yes/No 疑問文に言い換えるのは、児童の理解促進という点で有効であり、また、ほとんどの Wh 疑問文がコツさえ掴めば容易に Yes/No 疑問文に言い換えられる。しかし中には、うまく Yes/No 疑問文にできない、Yes/No 疑問文にすると不適切、Yes/No 疑問文にすると文が難しすぎる、等の場合もある。そうした例と対応法を順に見ていく。

まず、元の Wh 疑問文の「回答例」が多すぎて、いくつ Yes/No 疑問文をあげてもきりがない場合がある。典型的な例は以下である：

3: What's the date today? (今日は何月何日?)

この場合、1年の日付は365通りもあるため、そのうちのいくつかを教師が Yes/No 疑問文にしてみてもあまり意味がない (Is it January 1? / February 12? ...)。別の対応がいくつか考えられるが、この場合最も単純なのは、選択肢が比較的少ない「月」だけ先に Yes/No 疑問文で聞いてしまうことだろう。

Today ... is it June? Is it July? (今日は…6月かな? 7月かな?)

月が July で決まれば、続いて日にちに関しては、It's July ... (7月の…) と平板に言いかけて途中で言いやめ、続きを児童に促す技法が有効である。児童の側から数字が出なければ、日付を表すアラビア数字だけ板書して読ませるのも効果的だろう。一連の流れは以下のようなになる。

T: What's the date today? (今日は何月何日?)

S: [反応がない]

T: Today ... is it June? July? (今日は…6月かな? 7月かな?)

S: July. (7月) [あるいは、教師が July? と尋ねたタイミングで頷くなど]

T: That's right. It's July ... (その通り。今日は7月…)

S: [反応がない]

T: Its' July ... [と言いながら、黒板に July 8 と板書]

S: Eighth. (8日)

T: Very good. (よくできました)

また、「回答例が多すぎる」ために Yes/No 疑問文にしにくい問いの中で、個人的な内容のものは、教師が自分の回答を「例」として示すことで、Yes/No 疑問文と同等の効果を挙げることもできる。例えば、

62: Where did you go on your last family trip? (この前家族旅行でどこに行った?)

の場合、行き先はいくらでもありうるため、通常の Yes/No 疑問文で、Did you go to Tokyo? Kyoto? Nara? (東京に行った? 京都? 奈良?) と特定の都市だけ取り上げて尋ねるのも不自然である。この場合、「先生はね…」という例として、

I went to Odawara with my family during this summer. (私はこの夏、家族と小田原に行きました)

のように、Odawara の部分を強調して発話してから再び最初の Wh 疑問文を繰り返すことで、「場所を聞いている」ことが児童に伝わり、最初より答えやすくなるだろう。同様のことは、以下の4文にも当てはまる。

63: When is your birthday? (誕生日はいつ?)

→ My birthday is August 1. When is your birthday? (私の誕生日は8月1日です。あなたの誕生日はいつ?)

64: What did you get for your birthday? (誕生日に何をもらった?)

→ I got a new T-shirt. What did you get? (私は新しいTシャツをもらいました。あなたは何をもらった?)

65: What sport do you like to play? (何のスポーツをするのが好き?)

→ I like to play badminton. What sport do you like to play? (私はバドミントンが好き。あなたは何のスポーツをするのが好き?)

66: What do your friends call you? (友達はあるあなたのこと何て呼ぶの?)

→ My friends call me Chiezo. What do your friends call you? (私の友達は私のことを

チェゾウと呼びます。あなたの友達は?)

また、Yes/No 疑問文で「回答例」を挙げると際限がなく、かつ個人的な内容でもない例としては、以下のような「勝負の結果を尋ねる問い」がある。

11: Who got more than eight points? (8点以上の人?)

上記は、テストやゲーム、スポーツで高得点の児童を尋ねる Wh 疑問文である。この問いに誰も答えられず、Yes/No 疑問文で問い直すとする。クラスに30数人がいるにも関わらず、特定の児童だけを取り上げて、Did Akari get more than eight points? (アカリが8点以上だった?) と尋ねるのは、(その児童が高得点であろう明確な根拠があるとき以外は) 児童たちに奇異な印象を与えるだろう。こうした場合、Yes/No 疑問文での問い直しにこだわらず、数名の児童に How many points did you get? One? Two? (あなたは何点だった? 1点? 2点?) と聞いていき、「数字を聞いている」というヒントを与えたのち、教師が全体を見回しつつ、手を挙げるジェスチャーをしながら Who got more than eight points? と問えば、more than eight points に当てはまる児童が手を挙げやすくなるだろう。似たような例として、以下が3例が当てはまる。

20: Which team has the most points? (一番点数が多いチームはどこ?)

21: Who is the winner? (誰が勝った?)

22: Which team is the winner? (どのチームが勝ったの?)

この場合も、周りの数名の児童に無作為に Did you win? (あなたは勝った?) などと尋ねてみたのちに、改めて Wh 疑問文で問い直す手法が有効だろう。

また、うまく Yes/No 疑問文にならない別の場合として、Wh 疑問文をそのまま Yes/No 疑問文に置き換えると、小学生児童には文が複雑になりすぎる場合がある。典型的な例として、以下がある。

41: Which event excited you the most? ([運動会で] どの競技が一番面白かった? ; 原文的には「どの競技があなたも最も興奮させたか?」)

この場合、元の構文を尊重してそのまま Yes/No 疑問文にすると、Did the relay excited you the most? (リレーがあなたを最も興奮させたか?) のようになってしまう。このような無生物を主語とした文は、耳慣れない上に、児童にとっては抽象的で理解しづらい。このような場合は、むしろ児童自身を主語として Yes/No 疑問文を構成し、Did you

enjoy the relay? Tag of war? Beanbag toss? (あなたはリレーを楽しんだ? 綱引き? それとも玉入れ?) のように尋ねる方が、児童にとって具体的で理解しやすいだろう。

似たような例としては以下の5文があり、いずれも「元の Wh 疑問文の主語が無生物あるいは You 以外の人物」という点が共通である。

14: Who were the people in the show? (番組に誰と誰が出ていた?)

→ [児童を主語とし] Did you see the firefighters? The police officers? ... (消防士さんを見た? お巡りさんは?)

17: Who goes first? ([ゲームなどの順序で] 誰が最初?)

→ [児童を主語とし] Akari, do you want to go first? / Sathoshi, do you want to go first? (アカリ、あなたが最初にやる? サトシ、あなたが最初にやる?)

36: What was the most interesting thing? (何が一番楽しかった?)

→ [児童を主語とし] Did you enjoy the temples? The mountain? The bus? (お寺が楽しかった? 山かな? バスかな?)

42: What was your time in the 50-meter dash? (50m 走のタイムはいくつ?)

→ [児童を主語とし] Can you run 50-meter in 10 seconds? 9 seconds? (50m を10秒で走れる? 9秒?)

45: How did yesterday's soccer game go? (昨日のサッカーの試合どうだった?)

→ [児童を主語とし] Did you win? Did you enjoy it? (勝った? 楽しかった?)

うまく Yes/No 疑問文にならない Wh 疑問文の最後の例として、児童とのやり取りを促進するための問いかけではなく、知識を問うタイプの問いかけがある。典型例は以下である。

10: How do you spell "apple"? («アップル」はどのようにつづるの?)

すでに何度か触れたように、Yes/No 疑問文による問い直しの基本的な性質は「例を示す」ことである。10のように「知識を問う」こと自体が目的の場合、Is it "a-p-p-l-e"? (エイ、ピー、ピー、エル、イーかな?) と例を示してしまったり、それがそのまま正答であり、問いにならない。このような場合、Yes/No 疑問文に言い直すことにこだわらず、児童にさまざまな形で柔軟にヒントを与えることを工夫した方が良いだろう。例えば上記の場合、すでに述べた「平板に言いかけて続きを言わせる」技法を用いて、以下のようにやり取りを促すことができる。

T: How do you spell "apple"? («アップル」はどのようにつづるの?)

S: [反応がない]

T: Apple is ... “a” ... (「アップル」は、 a …) [黒板に a だけ書きつつ、上げ調子で続きを促す]

T: “p” ... “l” ... (p … l …) [このように意図的に間違えて、児童に「もう一度 p」と訂正させても良い]

S: “e.”(e)

紙面の都合上、全ての文に「やり取りを促す Yes/No 疑問文以外のヒント」を記すことができないが、上記と似たような「知識を問う Wh 疑問文」には、以下の4例がある。

16: What does “How do you do?” mean? (“How do you do?”はどういう意味ですか?)

54: What’s a young sheep called? (子どものヒツジは何と呼ばれる?)

55: What bird has lots of long, different colored tail feathers? (長くてカラフルな尾羽をたくさん持っている鳥は何?)

56: What do fish use to breathe? (魚は呼吸するために何を使う?)

#### 4. おわりに

ここまで、小学校英語授業において、児童とのやり取りを促進するための教師の発話技術として、「子どもへの効果的な問い直し方」の一つである、「Wh 疑問文を Yes/No 疑問文に言い換える」技法に特に注目し、どのような Wh 疑問文も Yes/No 疑問文にできるのか検証してみた。その結果、以下のことが明らかになった。

1. まず Wh 疑問文の「回答例」を考え、次にそれらの「回答例」を順に Yes/No 疑問文にしていくという基本を守れば、大多数の Wh 疑問文が Yes/No 疑問文に言い直せる。こうしたコツを掴むだけでも、小学校教師を目指す学生の発話技術は大いに向上するだろう。
2. ただし、中にはうまく Yes/No 疑問文にならない Wh 疑問文もあり、以下の4タイプに分けて対応法を探った：
  - i. Wh 疑問文の「回答例」が多すぎて、Yes/No 疑問文にきりがいい問い→回答を途中で言いかけて、続きを児童に促す／教師が自分の回答を「例」として示す
  - ii. 勝負の結果を尋ねる問い(特定の児童を「回答例」にすることが不適切な場合)→数名の児童に無作為に尋ねてみたのちに、改めて全体に向けて問い直す
  - iii. そのまま Yes/No 疑問文に置き換えると、児童には文が難解になりすぎる問い→児童自身を主語 (you) とした Yes/No 疑問文に置き換える
  - iv. 児童とのやり取りを促進するための問いかけではなく、知識を問うタイプの問い→必ずしも Yes/No 疑問文にこだわらずにヒントを工夫する

こうした技法を少しずつ身につけていくことで、学生が英語による児童とのやり取りに自信を持ち、将来的に児童の英語による返答を引き出す授業を行えるようになることを期待する。

## 参考文献

- Ferguson, C. A. "Baby Talk in Six Languages." In *American Anthropologist*. Vol. 66, Issue 6, Part 2. 1964. pp. 103-114.
- Gleitman, L. R., Newport, E. L., & Gleitman, H. The current status of the motherese hypothesis. *Journal of Child Language*, Volume 11, Issue 1. 1984. pp. 43-79.
- Krashen S. D. *Language Acquisition and Language Education*. Prentice Hall International. 1985.
- Ward, S. *Baby Talk*. London: Arrow Books. 2004.
- 伊藤克敏『ことばの習得と喪失 心理言語学への招待』勁草書房 2005年
- 岩立志津夫、小椋たみ子編著『やわらかアカデミズ・〈わかる〉シリーズ よくわかる言語発達 [改訂新版]』ミネルヴァ書房 2017年
- 早川知江「小学校「外国語」「外国語活動」における絵本読み聞かせ技術の向上をめざして」『名古屋芸術大学研究紀要』第42巻 2021年 pp. 267-288.
- 早川知江「英語絵本読み聞かせのための教室英語表現集の提案—英語が苦手な教師が小学校「外国語活動」を英語で行うために—」『名古屋芸術大学研究紀要』第43巻 2022年 pp. 267-288.
- 早川知江「児童の発話を促す英語絵本読み聞かせ—絵本反復利用における「問いかけ」の位置付け—」『機能言語学研究』第12巻 2023年 (a) pp. 37-54.
- 早川知江「英語絵本読み聞かせのための教室英語表現集の提案—実践検証と表現集の改善—」『名古屋芸術大学研究紀要』第44巻 2023年 (b) pp. 179-193.
- 早川知江「教師の発話技術向上を目指して—絵本読み聞かせ中の問いかけで児童の発話を引き出す—」『JES Journal』第26号、2026年刊行予定
- 正高信男『0歳児がことばを獲得するとき』中央公論新社 1993年
- 文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）』[https://www.mext.go.jp/content/20230120-mxt\\_kyoiku02-100002604\\_01.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20230120-mxt_kyoiku02-100002604_01.pdf) 2017年
- 文部科学省『外国語（英語）コアカリキュラムについて』[https://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/detail/\\_icsFiles/afieldfile/2019/04/04/1415122\\_3.pdf](https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2019/04/04/1415122_3.pdf) 2019年
- 萬谷隆一「小学校英語活動での絵本読み聞かせにおける教師の相互交渉スキルに関する事例研究」北海道教育大学紀要 教育科学編 60(1). 2009年 pp. 69-80.